

住みよく環境にやさしいまちづくり

～ごみから資源へ～

4年社会 9月～10月 48Q (16時間)
 附属新潟小学校 教諭 大矢 和憲

1 目指す姿

- 住みよく環境にやさしいまちづくりの概念を獲得する子ども
- ・ 関係付けるすべを用いて、「廃棄物の処理に従事する関係機関や回収と処理をしている人たち、地域の人たちだけではなく、地域のみならず（自分を含めた市民）が工夫や努力、協力することで、ごみの少ない環境にやさしいまちになることが分かった。だから、わたしもごみと資源物の分別をしっかりと協力していきたい」などと考える姿

2 単元の計画

	【学習活動】◎学習問題	【働き掛け】	Q
一 次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1日に出るごみの量や、自分の家での廃棄物処理について関心をもち、単元を貫く学習問題を設定する。 ◎毎日たくさん出るごみは、どのように集められ、処理されているのだろうか。 ○ これから調べたいことをまとめ、学習の計画を立てる。 ○ 家庭では、どのようなごみがどのように出されているか話し合う。 ○ 家庭では、どのようなごみをどのように出しているか調べる（宿題） ○ 学習問題についての予想を立て、確かめる方法を考える。 ○ ごみステーションとごみ収集車を調べ、廃棄物の回収の様子を調べる。 ○ 回収された廃棄物の行方を予想し、調査の計画を立てる。 ○ 新田清掃センターへ見学に行く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 疑問に思ったことを質問する。 ・ 見学をして分かったことや驚いたことをノートにまとめる。 ○ ごみ処理場の役割を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日計画的、衛生的にごみを処理している。 ○ 資源物の処理場へ見学に行く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 疑問に思ったことを質問する。 ・ 見学をして分かったことや驚いたことをノートにまとめる。 ○ 資源物の処理場の役割を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 担任の夏休み自由課題として「我が家のごみ調べ」の結果を発表する。 ◆ 新潟市で1日に出るごみの量や一人あたりのごみの量を提示する。 ◆ もしもごみが溜まり続けたらどうなるか考えさせる。 ◆ これから調べたいことを問い、単元を貫く学習問題を設定させる。 ◆ 自分の家では、どんなごみがどのように出されているかを問う。 ◆ 調べた結果を発表させ、気付いたことを問う。 ◆ 予想を出し合い、調査の視点をもたせる。 ◆ ごみステーションとごみ収集車について調べさせる。 ◆ 詳しく知りたいことや、質問したいことをまとめさせ、見学の視点をもたせる。 ◆ 疑問に思ったことをインタビューさせる。 ◆ 見学へ行き、分かったことや驚いたことをノートにまとめさせる。 ◆ 調べて分かった、ごみ処理場の役割を問う。 ◆ 疑問に思ったことをインタビューさせる。 ◆ 見学へ行き、分かったことや驚いたことをノートにまとめさせる。 ◆ 調べて分かった、資源物の処理場の役割を問う。 	24 Q 8 時間
	<p>○ ごみが少なくきれいなまち、市民が気持ちよくらせるまちにするために、ごみや資源物は計画的に集められ、衛生的に処理されている。</p>		
二 次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 回収されずに残っている廃棄物に関心をもち、学習問題を設定する。 ◎回収されなかったごみは、だれがどうしてどうなるのだろうか。 ○ 自治会やクリーンにいがた推進委員の方の話を聞き、地域の人々の活動について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 疑問に思ったことを質問する。 ・ 話を聞いて分かったことや驚いたことをノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 回収されなかった廃棄物が残っているごみステーションの写真を提示する。 ◆ 回収されなかった理由と、この後どうなるのかを予想させる。 ◆ 学習問題についての考えを交流させ、仮説を確かめるために必要な情報や方法を考えさせる。 ◆ 自治会やクリーンにいがた推進委員の方に聞いて仮説を確かめさせ、分かったことを問う。 	12 Q 4 時間
	<p>○ 地域では、自治会やクリーンにいがた推進委員の人が、ごみや資源物の適切な回収と生活環境の保全のために、工夫や努力、協力をしている。</p>		
	○ 地域のゴミ拾いをした後、ごみと	◆ 地域のゴミ拾い活動を設定し、集めた	

- 資源物の分別体験をする。
- スーパーやコンビニの入り口の写真から分かることを発表する。
 - ・ 地域のお店でも資源物を回収して協力している。

- ◆ ごみと資源物の分別体験をさせる。
- ◆ スーパーやコンビニの入り口の写真を提示し、気付いたことを問う。

○ **毎日たくさん出ているごみを、廃棄物の処理に携わる関係機関や回収と処理をしている人たち、地域の人たちが、工夫や努力、協力をして適切に回収と処理をしているおかげで、市民がぐらしやすい環境にやさしいまちになっている。**

三
次

- 新潟市の人口の推移を表したグラフを見て、思ったことを発表する。
- 新潟市のごみの量の推移を表したグラフを見て、驚いたことや疑問に思ったことを発表する。
- 驚きや疑問、問題意識から学習問題をつくる。
- ◎「人口はほとんど同じなのに、なぜごみの量がこんなに減ったのだろうか。何をしたら減ったのだろうか」
- 学習問題について考えるために必要な情報について考える。
- 「新ごみ減量制度」に関する資料を調べ、分かったことや考えたことを付箋に書く。
- 学習問題の解決につながる立場や方策（情報）をグループで整理し共有する。
- 全体で分かったことや考えたことを交流し、学習問題の解決につながる立場や方策を明らかにしていく。
- 学習問題についての結論を考える。
- ゲストティーチャーの話を聞き、自分たちの考えの妥当性を確かめる。
- 学習のまとめとして、大切なことと自分の考えをワークシートに記述する。

- ◆ 新潟市の人口はほとんど変わらないが、ごみが減っている事実を提示し、これからみんなで考えたいことを問う。
【働き掛け1】

- ◆ どのようなことが分かれば学習問題について考えられそうか問う。
- ◆ 「新ごみ減量制度」に関する資料を提示し、資料から分かったことや考えたことを付箋に書かせ、コア・マトリクス表に整理して貼らせる。
【働き掛け2】

- ◆ 誰がどうしているのか問い、考えを交流させた後、学習問題についての結論を問う。
【働き掛け3】

- ◆ ごみを減らす活動をしている人たち（ゲストティーチャー）の話を聞かせる。
【働き掛け4】

○ **廃棄物の処理に従事する関係機関や回収と処理をしている人たち、地域の人たちだけではなく、地域のみならず（自分を含めた市民）が工夫や努力、協力することで、ごみの少ない環境にやさしいまちになることが分かった。だから、わたしもごみと資源物の分別をしっかりと協力していきたい。**

- 単元のまとめとして、「ぼくわたしのごみダイエット作戦」をつくる。
- (○ 「ごみダイエット作戦」を家庭で実行する。～レポートを発表する。)
- ※ 宿題

- ◆ これまでの学習をまとめて、「ぼくわたしのごみダイエット作戦」をつくらせる。
- ◆ 「ごみダイエット作戦」を家庭で実行させ、レポートにまとめさせる。
- ※ 国語との関連を図る。

24
Q
4
時間

4 準備するもの及び留意点

- ごみ収集車・ごみステーション・新田清掃センター・資源物処理施設（施設・働く人の調査）
- 町内自治会の人たち・クリーンにいがた推進委員の方 ○ 市役所の方 ○ 保護者
- 新潟市の1日のごみの量などの資料 ○ スーパーやコンビニ店頭の写真
- 新潟市の人口の推移を表したグラフ ○ 新潟市のごみの量の推移を表したグラフ
- 「新ごみ減量制度」に関する資料 ○ コア・マトリクス表 ○ ワークシート

5 内容の関連

[第4学年] 安全安心
 ○ 中心となる見方や考え方
 : 安全で安心なまちづくりの概念
 ・ 交通事故防止や防犯の取組について

[第4学年] ごみの処理
 ○ 中心となる見方や考え方
 : 住みよく環境にやさしいまちづくりの概念
 ・ ごみの処理や資源化の取組について

[第4学年] 特色ある地域
 ○ 中心となる見方や考え方
 : 地域への願いと特色を生かしたまちづくりの概念
 ・ 県内の特色ある地域の地域活性化の取組について